

トラフィック監視ツール (TrafficWatch)

マニュアル

Ver.1.10

KHFactory

内容

1	はじめに	4
2	機能概要	5
3	インストール・ライセンスについて	6
3.1	インストール・アンインストール	6
3.2	ライセンス	7
3.2.1	ライセンスについて	7
3.2.2	正規版について	7
3.2.3	試供品（試供モード）について	7
3.2.4	ライセンス認証方法	7
3.3	複数実行対応	8
3.4	バージョンアップ	8
4	使用方法	9
4.1	基本的な使い方	9
4.2	ネットワークトラフィック監視	10
4.3	HDD アクセス量監視	11
4.4	Windows のスリープ機能を使いたい場合	12
4.5	独自コマンドの実行	12
5	画面説明	13
5.1	監視画面	13
5.2	設定画面	17
5.2.1	時間制御設定画面（V1.10）	20
5.3	バージョン画面	23
5.4	最小化時の監視画面	25
6	注釈説明	27
6.1	（注1）スリープと休止について	27
7	あとがき	28
7.1	バグを発見した場合	28
7.2	ご意見・ご要望	28

7.3 各種 URL.....	28
8 更新履歷	29

1 はじめに

この度は試供版のダウンロードもしくは正規版のお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本マニュアルは試供版、正規版共通となっております。なお、試供品は機能制限があります。ご了承ください。

このツールは、ネットワークや HDD のアクセス量を監視し、閾値以下の状態が継続した場合に、コマンドの実行を行います。

コマンドは、Windows のスリープや休止だけでなく、独自に設定したコマンドやシャットダウンに変更することもでき、節電対策にも効果があります。

また、Windows 機能のスリープやスクリーンセーバーへの移行を回避できますので、ダウンロード中や動画鑑賞、ファイルコピー中などでスクリーンセーバーやスリープ／休止を回避したい場合などでも便利です。

2 機能概要

このツールには以下の機能があります。

【監視対象】

- ネットワークトラフィック
 - ・ 受信パケット数の監視
 - ・ 送信パケット数の監視
- HDD のアクセス量
 - ・ 全ドライブのアクセス量が対象
- ユーザ操作

(「4.1 基本的な使い方」を参照)

(「4.2 ネットワークトラフィック監視」を参照)

(「4.3 HDD アクセス量監視」を参照)

【回避機能】

- Windows 機能のスリープ
- Windows 機能のスクリーンセーバー
 - ・ WindowsXP SP2 以降はマウス疑似動作にて対応

【監視時間経過後の動作】

- コマンド (自由に設定可能)
- スリープ (注1)
- 休止 (注1)
- シャットダウン

(「4.1 基本的な使い方」を参照)

【起動】

- 複数同時起動
 - ・ 同名の二重起動は禁止
 - ・ 別ファイル名による起動は複数可能

(「3.3 複数実行対応」を参照)

【その他】

- ログの出力
- 最小化時、タスクトレイに移動
 - ・ 起動時に選択可能

3 インストール・ライセンスについて

3.1 インストール・アンインストール

インストーラーはありません。

「TrafficWatch.zip」を任意のディレクトリに展開し、ツールの起動は「TrafficWatch.exe」を実行してください。

なお、このツールで使用するファイルは以下の通りです。

表 1 ファイル一覧

種類	ファイル名	説明
付属	TrafficWatch.exe	実行ファイル
付属	簡易マニュアル.txt	簡略版のマニュアル
付属	トラフィック監視ツールマニュアル.docx	正規マニュアル（本書・Word 版）
付属	トラフィック監視ツールマニュアル.pdf	正規マニュアル（本書・PDF 版）
生成	TrafficWatch.conf	設定ファイル（設定画面で保存すると生成）
生成	TrafficWatch.key	認証ファイル ライセンスキーを認証すると生成 ※実行ファイルと同じディレクトリに置くこと
生成	TrafficWatch.log	ログファイル（ファイル名は自由に設定可能）
生成	XXX.YYY_old	旧ファイル（1つ前のファイルをバックアップ） ログファイルで生成
ダウンロード	TrafficWatch _NewVer.zip	バージョン画面から最新版をダウンロード

3.2 ライセンス

3.2.1 ライセンスについて

正規版は使用者 1 名に対して 1 ライセンスです。

1 名であれば、複数の PC で使用しても問題ありません。

企業など複数の方が使用する場合、ライセンス契約のお問い合わせをお願いいたします。

なお、正規版のバージョンアップは無料で行えるように作成されております。

試供品（試供モード）でのご利用については特に制限はありません。

3.2.2 正規版について

正規品としてご購入頂いた場合でも、ライセンス認証を行うまでは試供モードで起動します。

ライセンス認証を行うと全機能が解放されます。（「3.2.4 ライセンス認証方法」参照）

3.2.3 試供品（試供モード）について

試供モードは、機能や使い勝手をご評価いただくための物です。

機能の制限はありませんが、実行回数や試用期限の制限があり、PC 間では設定データの引継ぎ（ライセンス認証で引継ぎ可能となる）が出来ません。

ご購入の検討にご利用ください。

正規版のバージョンアップに合わせて試供品もバージョンアップしております。最新の試供品を取得する場合、Vector・ホームページ等から再度ダウンロードしてください。

なお、バージョンが異なる場合、設定ファイルは引き継げませんが、制限がリセットされます。再度ご試供ください。

また、不正使用を検知するように作成しております。不正使用を行った場合、法的措置を取らせていただくことがありますので、ご了承ください。

3.2.4 ライセンス認証方法

ご購入頂くと、ライセンスキーの通知か認証ファイルが送られてきます。

【ライセンスキーの場合】

設定画面のバージョンタブからバージョン画面を開き、ライセンスキーを入力してください。認証ファイルが生成され、正規版として動作するようになります。

【認証ファイルの場合】

実行ファイルと同じパスに置くことで、正規版として動作することができます。

3.3 複数実行対応

実行ファイル「TrafficWatch.exe」をコピーし、ファイル名を変更することで複数の同時実行が可能となります。（同ファイル名での二重起動は禁止で、起動済みがアクティブとなる）

設定を引き継ぎたい場合は、設定ファイルをコピーし、ファイル名（.confの前の部分）を変更した実行ファイル名に合わせてください。

設定ファイルが無い場合でも起動可能です。設定を保存した時に生成されます。

なお、正規版で他ディレクトリに実行ファイルをコピーした場合、認証ファイル「TrafficWatch.key」（ファイル名は固定の為、変更しない）もコピーしてください。

3.4 バージョンアップ

バージョン画面から最新バージョンのファイルをダウンロードすることができます。

ダウンロードすると、実行パスに「TrafficWatch_NewVer.zip」として保存されます。

これを展開し、実行ファイルを置き換えることで最新版へのバージョンアップとなります。

なお、最新のバージョン番号は、バージョン画面の「最新バージョン番号」ボタンを押すと取得できます。

※正規版のみ実行可能（無償）、インターネット環境が必要

4 使用方法

基本的な使用方法を以下に記載する。細かい機能や設定については「5 画面説明」を参照。

4.1 基本的な使い方

ダウンロードの実施中やファイルのコピー中（詳細は次章に記載）に Windows のスリープ機能が働き中断されることがある。

このツールを起動すると、ネットワークトラフィック・HDD アクセス・ユーザ操作を監視し、ダウンロードやファイルコピー・動画再生などの動作をしておらず、ユーザも操作していない“本当”のアイドル状態が続いた場合にスリープやシャットダウンを行うことができる。

簡単な手順を以下に記述する。

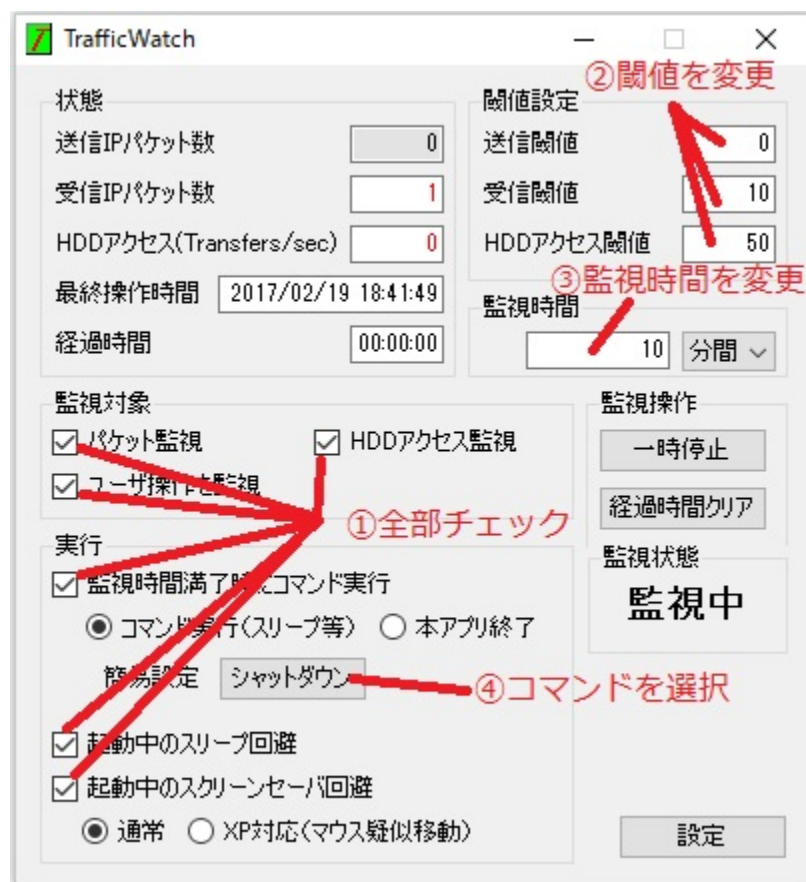


図 1 “本当”のアイドル状態が続いた場合にシャットダウン

- ① 全てをチェックする。
- ② 閾値（1 秒当たり）を設定する。
※「0」は監視対象外。
- ③ 監視時間を設定する。
※この時間の間、閾値が下回ればコマンド（ここではシャットダウン）を実行。
- ④ 「簡易設定」ボタンの表示が「シャットダウン」になるまで数回押下する。

4.2 ネットワークトラフィック監視

ダウンロードを実施中にインターネットエクスプローラーは Windows のスリープ機能が回避されるが、他のウェブブラウザ（FireFox など）では回避されないものがある。

それらを使用中に、Windows のスリープ機能を回避し、ダウンロード完了後にスリープやシャットダウンを行う目的の機能。

ダウンロード中のスリープを回避し、ダウンロード終了後にシャットダウンするための簡単な手順を以下に記載する。

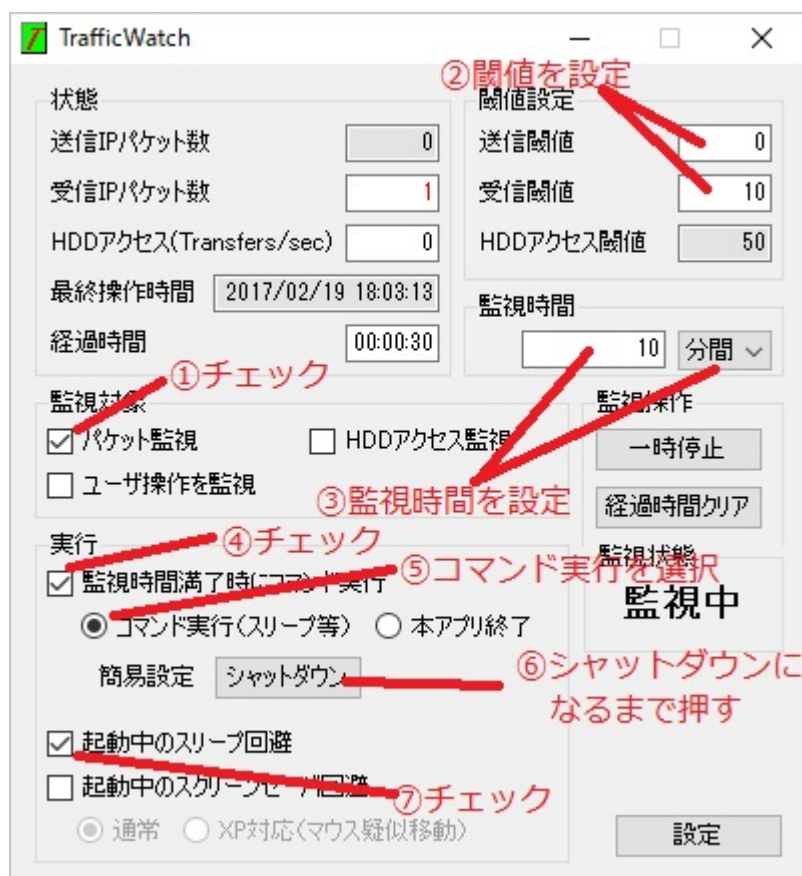


図 2 スリープを回避しダウンロード後にシャットダウン

- ① 「パケット監視」をチェックする。
- ② パケットの閾値（1 秒当たり）を設定する。
※「0」は監視対象外。
- ③ 監視時間を設定する。
※この時間の間、閾値が下回ればコマンド（ここではシャットダウン）を実行。
- ④ 「監視時間満了時にコマンド実行」をチェックする。
- ⑤ 「コマンド実行」を選択する。（初期値）
- ⑥ 「簡易設定」ボタンの表示が「シャットダウン」になるまで数回押下する。
- ⑦ 「起動中のスリープ回避」をチェックする。

4.3 HDD アクセス量監視

HDD のバックアップなどで大量のファイルコピー中や、動画鑑賞中にスリープ機能やスクリーンセーバー機能が動作するのを回避する目的の機能。

動画鑑賞中のスクリーンセーバーを回避し、動画再生の終了後（HDD アクセスが無くなる）にシャットダウンするための簡単な手順を以下に記載する。

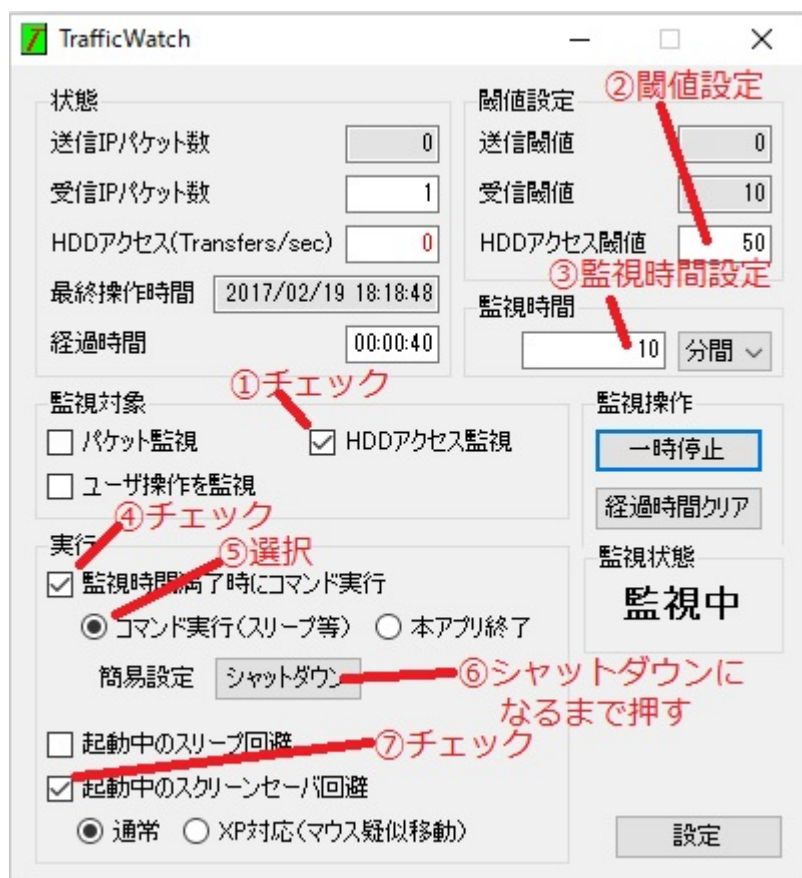


図 3 簡易検索手順

- ① 「HDD アクセス監視」をチェックする。
- ② HDD アクセス閾値（1 秒当たり）を設定する。
※「0」は監視対象外。
- ③ 監視時間を設定する。
※この時間の間、閾値が下回ればコマンド（ここではシャットダウン）を実行。
- ④ 「監視時間満了時にコマンド実行」をチェックする。
- ⑤ 「コマンド実行」を選択する。（初期値）
- ⑥ 「簡易設定」ボタンの表示が「シャットダウン」になるまで数回押下する。
- ⑦ 「起動中のスクリーンセーバー回避」をチェックする。

4.4 Windows のスリープ機能を使いたい場合

Windows 機能のスリープを使用したい場合は、「本アプリ終了」を選択すると、監視時間満了でツールが終了し、Windows のスリープやスクリーンセーバーの回避を行わなくなる。

その後の時間経過により Windows のスリープ機能が動作する。

4.5 独自コマンドの実行

設定できるコマンドは、コマンドライン (Windows の「ファイル名を指定して実行」(Windows キー+R) やコマンドプロンプト) から動作可能なもので、設定画面のコマンド名とパラメータを入力し、コマンドを選択することで実行可能となる。(「5.2 設定画面」参照)

5 画面説明

5.1 監視画面

トラフィックを監視する画面。

監視対象の設定やパケット量・HDD アクセス量の閾値や監視時間の設定、状態の表示、回避設定、満了時の動作など、基本的な設定と表示はここで行われる。

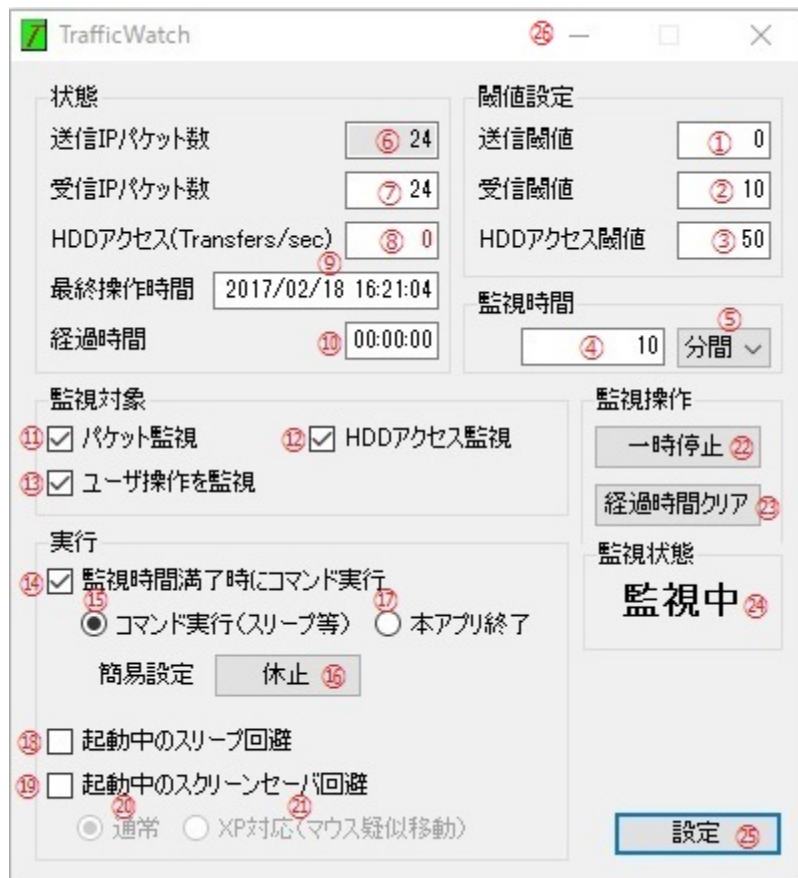


図 4 検索画面

① 「閾値設定」送信閾値入力欄

1 秒当たりの送信パケット数の閾値を入力する。

入力無しや「0」を設定した場合は監視対象から外れ、「状態」の送信 IP パケット数の表示欄が灰色となる。

監視対象の⑪パケット監視がチェックされていない場合は入力欄が灰色となる。

② 「閾値設定」受信閾値入力欄

受信パケット数の閾値を入力する。

入力無しや「0」を設定した場合は監視対象から外れ、「状態」の受信 IP パケット数の表示欄が灰色となる。

監視対象の⑪パケット監視がチェックされていない場合は入力欄が灰色となる。

- ③ 「閾値設定」 HDD アクセス閾値入力欄
受信パケット数の閾値を入力する。
入力無しや「0」を設定した場合は監視対象から外れ、「状態」の HDD アクセス (Transfers/sec) の表示欄が灰色となる。
監視対象の②HDD アクセス監視がチェックされていない場合は入力欄が灰色となる。
- ④ 「監視時間」 入力欄
監視時間を入力する。⑤と連携して監視時間となる。
監視対象が何もない場合は入力欄が灰色となる。
※上限判定あり
- ⑤ 「監視時間」 時間単位選択欄
監視時間の単位を選択する。④と連携して監視時間となる。
※上限判定あり
- ⑥ 「状態」 送信 IP パケット数表示欄
1 秒当たりに PC が送信しているパケット数を表示する。
監視判定で閾値を下回る場合は文字が赤となる。
- ⑦ 「状態」 受信 IP パケット数表示欄
1 秒当たりに PC が受信しているパケット数を表示する。
監視判定で閾値を下回る場合は文字が赤となる。
- ⑧ 「状態」 HDD アクセス (Transfers/sec) 表示欄
1 秒当たりに PC が HDD にアクセスしている量を表示する。
監視判定で閾値を下回る場合は文字が赤となる。
- ⑨ 「状態」 最終操作時間表示欄
ユーザ操作を監視する場合に、最後に PC が操作された時間を表示する。
ユーザ操作を監視しない場合は表示欄が灰色となる。
監視判定で操作が無い場合は文字が赤となる。
- ⑩ 「状態」 経過時間表示欄
監視対象が閾値を下回った状態の経過時間を表示する。
経過時間が監視時間の 5 割を超過した場合は文字が橙色、8 割を超過した場合は赤となる。
- ⑪ 「監視対象」 「パケット監視」 チェックボックス
送信パケット量と受信パケット量を監視する場合にチェックする。
チェックしない場合、①と②の閾値入力欄が灰色となる。

- ⑫ 「監視対象」「HDD アクセス監視」チェックボックス
HDD アクセス量を監視する場合にチェックする。
チェックしない場合、③の閾値入力欄が灰色となる。
- ⑬ 「監視対象」「ユーザ操作を監視」チェックボックス
PC の操作を監視する場合にチェックする。
チェックしない場合、⑨の最終操作時間表示欄が灰色となる。
- ⑭ 「実行」「監視時間満了時にコマンド実行」チェックボックス
継続時間が監視時間を超過した場合に指定したコマンドを実行する場合にチェックする。
- ⑮ 「実行」「監視時間満了時にコマンド実行」「コマンド実行（スリープ等）」ラジオボタン
監視時間満了時にコマンド実行する場合に選択する。
- ⑯ 「実行」「監視時間満了時にコマンド実行」「簡易設定」ボタン
実行するコマンドを簡易的に選択する場合に押下する。
「コマンド→スリープ→休止→シャットダウン→（コマンドに戻る）」と遷移する。
※設定画面で詳細な設定が可能。
- ⑰ 「実行」「監視時間満了時にコマンド実行」「本アプリ終了」ラジオボタン
監視時間満了時にこのツールを終了する場合に選択する。
※Windows のスリープ機能などを使用したい場合に使用する。
- ⑱ 「実行」「起動中のスリープ回避」チェックボックス
このツールの起動中は Windows のスリープ機能を回避したい場合にチェックする。
- ⑲ 「実行」「起動中のスクリーンセーバー回避」チェックボックス
このツールの起動中は Windows のスクリーンセーバー機能を回避したい場合にチェックする。
- ⑳ 「実行」「起動中のスクリーンセーバー回避」「通常」ラジオボタン
スクリーンセーバーを回避する方法を通常とする。
※Windows XP の SP2 より前、Windows Vista 以降はこちらを選択
- ㉑ 「実行」「起動中のスクリーンセーバー回避」「XP 対応（マウス疑似移動）」ラジオボタン
スクリーンセーバーを回避する方法をマウスの疑似操作（マウスのユーザ操作に影響は無い）とする。
※Windows XP の SP2 以降は Windows のバグにより通常の回避ができないためこちらを選択

- ② 「監視操作」「一時停止・停止解除」ボタン
監視を一時停止させたい場合に押下する。ボタンの表示は「停止解除」に変更される。
停止中は①②③の閾値入力欄、④監視時間入力欄が灰色となる。
※停止した状態を維持するため、停止解除で経過時間は継続
- ③ 「監視操作」「経過時間クリア」ボタン
経過時間をリセットする。
- ④ 「監視状態」表示欄
監視状態を表示する。
一時停止ボタンを押下した場合は「停止中」、監視対象が無い場合は「対象なし」、監視中は「監視中」と表示する。
- ⑤ 「設定・~~バージョン~~」ボタン
~~正規版（認証済み）は設定ボタン、試供品（試供品モード）の場合はバージョンボタンとなり、それぞれの画面を表示する。~~
設定画面を表示する。（V1.10）
- ⑥ 「最初化」ボタン
監視画面を最小化するボタン。
最小化されるとタスクバーから消え、タスクトレイに移動する。（「5.4 最小化時の監視画面」参照）

5.2 設定画面

設定画面は表示や監視やの間隔、コマンドの設定、ログの設定、バージョン画面の表示を行う。
適用もしくは、保存を行わないと設定は反映されないため注意。



図 5 設定画面

- ① 「間隔」表示間隔（秒）入力欄
監視画面の状態欄の更新時間を設定する。
- ② 「間隔」監視間隔（秒）入力欄
閾値の判定を行うタイミングを設定する。
なお、この時間で1秒あたりの平均値を算出するため、ある程度の時間を設定する必要がある。
※表示間隔より長くすることを推奨
- ③ 「コマンド実行」「コマンド」ラジオボタン
監視時間満了時に独自のコマンドを実行したい場合を選択する。

実行するコマンドは④と⑤で設定する。

※設定の反映、保存で監視画面の簡易設定ボタンに反映

- ④ 「コマンド実行」「コマンド」 コマンド入力欄
実行するコマンドを入力する。
実行時は⑤パラメータ入力欄のパラメータを付与する。
※コマンド入力欄にコマンド+パラメータを入力しても動作可能
- ⑤ 「コマンド実行」「コマンド」 パラメータ入力欄
④のコマンドに付与するパラメータを入力する。
- ⑥ 「コマンド実行」「スリープ」 ラジオボタン
監視時間満了時にスリープ処理を行いたい場合に選択する。(注1)
※設定の反映、保存で監視画面の簡易設定ボタンに反映
- ⑦ 「コマンド実行」「休止」 ラジオボタン
監視時間満了時に休止処理を行いたい場合に選択する。(注1)
※設定の反映、保存で監視画面の簡易設定ボタンに反映
- ⑧ 「コマンド実行」「シャットダウン」 ラジオボタン
監視時間満了時にシャットダウン処理を行いたい場合に選択する。
※設定の反映、保存で監視画面の簡易設定ボタンに反映
- ⑨ 「コマンド実行」「時間制御」 ラジオボタン (V1.10)
監視時間満了時に時間に対応する動作を行いたい場合に選択する。
※設定の反映、保存で監視画面の簡易設定ボタンに反映
- ⑩ 「コマンド実行」「時間制御設定」 ボタン (V1.10)
時間制御の設定画面を表示する。
- ⑪ 「起動後の表示」「タスクトレイに移動」 チェックボックス
起動時に画面を表示せず、自動的にタスクトレイに移動したい場合にチェックする。
- ⑫ 「ログ」 最大ログ数入力欄
ログファイルに出力するログの最大数を入力する。
この数を超えた場合は、今までのログファイルがバックアップ（「_old」）され、新規ファイルを作成する。
- ⑬ 「ログ」 ログレベル入力欄
ログファイルに出力するログのレベルを設定する。

各ログレベルで出力される内容は以下の通り。

表 2 ログ出力内容

ログレベル	出力内容	タイミング
1	起動・終了 コマンド実行	ユーザ操作 監視時間満了時
2	レベル 1 + 継続時間のリセット	監視間隔
3	レベル 2 + スリープ・スクリーンセーバー回避	監視間隔
4	レベル 3 + パケット量等	表示間隔

- ⑭ 「ログ」 ログファイル名入力欄
出力するログのファイル名を入力する。
※パスの省略、フルパス指定が可能
- ⑮ 「ログ」「出力有り」チェックボックス
ログを出力する場合にチェックする。
- ⑯ 「適用」 ボタン
変更した設定を適用する場合に押下する。
設定を変更した場合に活性、適用した場合に非活性となる。
- ⑰ 「保存」 ボタン
変更した設定を適用し、保存する場合に押下し、設定画面を閉じる。
- ⑱ 「バージョン」 ボタン
バージョン画面を表示する。

5.2.1 時間制御設定画面（V1.10）

時間制御設定画面は設定画面の「時間制御設定」ボタンで開き、監視時間経過後に行う動作を時刻毎に設定する。毎日・曜日毎・期間の指定と優先度・実行されるコマンドの指定が可能。

設定を変更した場合、即時反映されるが、保存は設定画面の保存もしくは終了時のダイアログで行われるため注意。



図 6 時間制御設定画面

※上記設定の場合、期間で 2019/2/9～2019/2/16 の期間が最優先で、シャットダウン動作となる。その他の期間では土日は休止、その他は 0 時から 7 時がシャットダウン、7 時から 24 時がスリープとなる。

- ① 「時間制御」リスト
- 時間毎の設定をリスト表示する。なお、選択すると、「追加・変更」欄の内容に反映される。
- リストに表示される項目は下表のとおり。

表 3 時間制御リストの項目

項目	内容
有効	設定を有効にする場合チェックする。チェックなしの場合は、項目削除と同等。
優先度	優先順位を表示する。「1」が最優先。1 から 100 まで
種別	時刻の種類として、毎日／曜日（指定した曜日）／期間を表示する。

開始	開始時刻を表示する。毎日・毎週の場合は時分、期間指定の場合は年月日時分
終了	終了時刻を表示する。毎日・毎週の場合は時分、期間指定の場合は年月日時分
動作	監視時間満了時の動作を表示する。設定画面のコマンド実行に対応する。

- ② 「削除」 ボタン
選択した時間制御リストの項目を削除する。
- ③ 「↑」 ボタン
選択した項目を上位に移動。
※同じ優先度の場合、上位の項目が優先
- ④ 「↓」 ボタン
選択した項目を下位に移動。
※同じ優先度の場合、上位の項目が優先
- ⑤ 「追加・変更」「優先度」 入力欄
優先度を入力する。
※同じ優先度の場合、上位の項目が優先
- ⑥ 「追加・変更」「開始」 入力欄
開始時刻を入力する。
- ⑦ 「追加・変更」「終了」 入力欄
終了時刻を入力する。
- ⑧ 「追加・変更」「動作」 コンボボックス
監視時間満了時に行う動作を選択する。
- ⑨ 「追加・変更」「毎日」 ラジオボタン
毎日行う動作を設定する場合にチェックする。
- ⑩ 「追加・変更」「曜日」 ラジオボタン
曜日毎に行う動作を設定する場合にチェックする。
- ⑪ 「追加・変更」「日」 チェックボックス
日曜に行う動作を設定する場合にチェックする。
※曜日の場合のみ有効
- ⑫ 「追加・変更」「月」 チェックボックス
月曜に行う動作を設定する場合にチェックする。

※曜日の場合のみ有効

- ⑬ 「追加・変更」「火」チェックボックス
火曜に行う動作を設定する場合にチェックする。
※曜日の場合のみ有効
- ⑭ 「追加・変更」「水」チェックボックス
水曜に行う動作を設定する場合にチェックする。
※曜日の場合のみ有効
- ⑮ 「追加・変更」「木」チェックボックス
木曜に行う動作を設定する場合にチェックする。
※曜日の場合のみ有効
- ⑯ 「追加・変更」「金」チェックボックス
金曜に行う動作を設定する場合にチェックする。
※曜日の場合のみ有効
- ⑰ 「追加・変更」「土」チェックボックス
土曜に行う動作を設定する場合にチェックする。
※曜日の場合のみ有効
- ⑱ 「追加・変更」「期間」ラジオボタン
期間内に行う動作を設定する場合にチェックする。
- ⑲ 「追加・変更」「追加」ボタン
時間制御リストに項目を追加する。
- ⑳ 「追加・変更」「変更」ボタン
選択した時間制御リストの項目を変更する。
- ㉑ 「リスト以外の時間の動作」コンボボックス
時間制御リスト以外の時間で項目を変更する。
- ㉒ 「閉じる」ボタン
時間制御設定画面を閉じる。
設定の保存は設定画面で行う。

5.3 バージョン画面

現バージョンの表示や最新バージョンの表示、最新ファイルのダウンロードを行う。



図 7 バージョン画面

- ① 「バージョン」
起動しているツールのバージョン番号とリリース日を表示する。
- ② 「ダウンロード」「最新バージョン番号」ボタン
最新バージョン番号をネット経由で取得し、最新バージョン番号表示欄に表示する。

- ③ 「ダウンロード」 最新バージョン番号表示欄
取得したバージョン番号を表示する。
- ④ 「ダウンロード」「最新版ダウンロード」 ボタン
最新版をネット経由でダウンロードする。最新版が使用されている場合はダウンロードするか確認される。
実行場所にバージョンを問わず同名（DirectoryFileSearch_NewVer.zip）の圧縮ファイルが保存されるため、旧バージョンのファイルがある場合は上書きの確認をされる。
最新バージョンでは不具合がある可能性があるため、旧バージョンの保存を推奨。
- ⑤ 「意見・バク報告」 問い合わせ URL
「お問い合わせフォーム」 のリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存（注 4）
- ⑥ 「ライセンス」 ライセンスキー入力欄
ライセンスキーを入力する。
ライセンスキーの登録が完了すると非活性となる。
- ⑦ 「ライセンス」「登録」 ボタン
ライセンスキーを登録する。
ライセンスキーの登録が完了すると「認証済み」となり、非活性となる。
- ⑧ 「ホームページ」 ホームページ URL
「KH Factory」 のホームページのリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存（注 4）
- ⑨ 「ホームページ」 ツール販売 URL
「KH Factory」 のホームページのツール販売へのリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存（注 4）
- ⑩ 「閉じる」 ボタン
バージョン画面を閉じる。

5.4 最小化時の監視画面

監視画面を最小化した場合、タスクバーから削除され、タスクトレイに移動する

最初はパターン1のように画面右下に外に表示されるが、Windows のバージョンによっては時間が経つとパターン2のように中に格納される。

【マウスカーソルを合わせた場合】



図 8 最小化時の監視画面（パターン1）

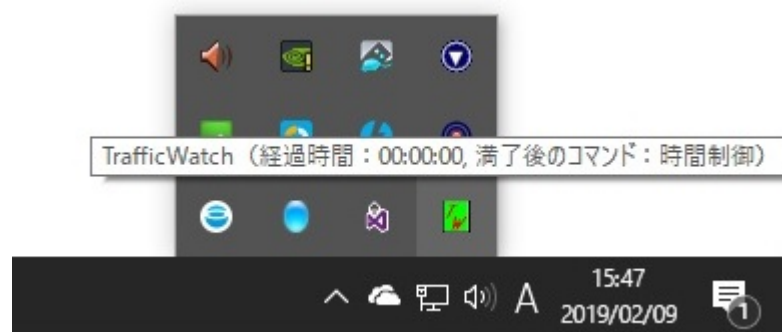


図 9 最小化時の監視画面（パターン2）

① 状態表示

経過時間と満了後のコマンド（v1.10）が表示される。

【右クリックでコンテキストメニューを表示した場合】

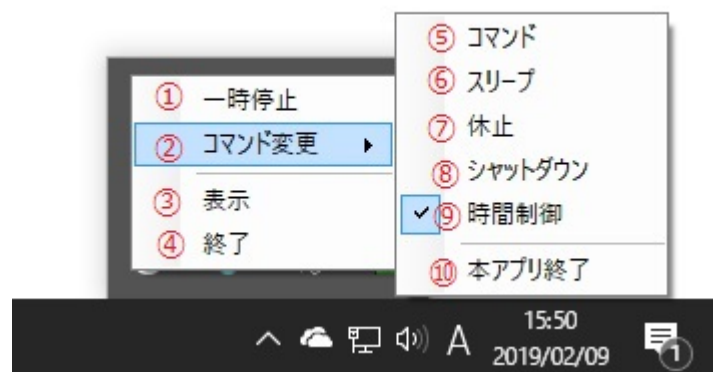


図 10 最小化時の監視画面（パターン1）

① 「コンテキストメニュー」「一時停止・停止解除」（V1.10）

監視中の場合、「一時停止」と表示され、クリックすると監視が一時停止される。

停止中の場合、「停止解除」と表示され、クリックすると監視が再開される。

- ② 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」(V1.10)
マウスカーソルを合わせると、サブメニューを表示する。
クリックすると、監視満了後に実行するコマンドをコマンド⑤から⑨を順次変更する。
- ③ 「コンテキストメニュー」「表示」
監視画面が最大化される。
- ④ 「コンテキストメニュー」「終了」
ツールが終了する。
- ⑤ 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」「コマンド」(V1.10)
監視満了後に実行するコマンドを「コマンド」に変更する。
- ⑥ 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」「スリープ」(V1.10)
監視満了後に実行するコマンドを「スリープ」に変更する。
- ⑦ 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」「停止」(V1.10)
監視満了後に実行するコマンドを「停止」に変更する。
- ⑧ 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」「シャットダウン」(V1.10)
監視満了後に実行するコマンドを「シャットダウン」に変更する。
- ⑨ 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」「時間制御」(V1.10)
監視満了後に実行するコマンドを「時間制御」に変更する。
- ⑩ 「コンテキストメニュー」「コマンド変更」「本アプリ終了」(V1.10)
監視満了後にこのアプリを終了する動作に変更する。

※⑥から⑩のチェックは現在設定されているものを示す。チェック項目をクリックした場合、チェックが外れる。何もチェックされていない場合は、監視満了後の動作は無い。

6 注釈説明

6.1 （注 1）スリープと休止について

スリープへ移行するか休止へ移行するかはシステムの設定に影響される。

（WindowsXp と 7 で試したところ、デフォルトは休止）

以下のコマンドを” 管理者権限 ” で実行することで設定を変更できる。

- ・ スリープへ移行したい場合

```
powercfg /hibernate off
```

- ・ 休止へ移行したい場合

```
powercfg /hibernate on
```

ツール内で上記コマンドを実行しているが、“**ツール自体を管理者権限で起動**”しないと反映されないため注意が必要。

7 あとがき

7.1 バグを発見した場合

基本動作の確認はしておりますが、潜伏バグが残っている場合やデグレート（バク対応により既存部分が壊れる）が発生する場合があります。

ご連絡いただければ順次対応しバージョンアップしますので、下記お問い合わせフォームにてご連絡をお願いいたします。

7.2 ご意見・ご要望

使い勝手を良くするためのバージョンアップを重ねております。

このツールに対するご意見、ご要望がありましたらお問い合わせフォームよりご連絡をお願いいたします。

また、「こんなツールがあると便利」というような意見もありましたらご連絡下さい。

7.3 各種 URL

ホームページに、他のツールも載せております。ご参考いただけると幸いです。

ホームページ：<http://khfactory.web.fc2.com/>

ツール販売：http://khfactory.web.fc2.com/pc/pc_tool.html

お問い合わせフォーム；<http://form1.fc2.com/form/?id=925201>

※バージョン画面にも同リンクが張られております。

マニュアルをご覧くださいありがとうございました。

8 更新履歴

日付	バージョン	説明
2017/02/20	1.09	マニュアル初版作成
2019/02/09	1.10	試供品モードの機能制限を解除し、使用期間制限に変更。 監視満了後の動作として「時間制御」を追加。